

令和6年11月26日(火)  
大崎タイムス掲載

## 「リスクアセスメント」を研修

職場での危険性や有害性を特定し、労働災害や健康障害の低減を図る「リスクアセスメント」について学ぶ研修会が8日、大崎市古川の大崎建設産業会館で開かれた。宮城労働基準協会古川支部（木田秀隆支部長）の主催で、管内を中心に33社58人が参加した。

古川労働基準監督署安全衛生課の新野正樹課長はリスクアセスメントについて「全員で職場の危険の芽と対策を知り、災害リスクを事前に取り除くのが狙い」と指摘。フォークリフトで後退中に後方確認が不十分だったために通行者にぶつかり足を骨折させた事例を元に、発生の頻度や可

能性、重篤度の見積も

りを点数化し、リスク

レベルを算出する手法

とリスク低減措置を検

討する手順を示した。

美里町に工場がある

金属加工業「三和工業

（石巻市、従業員47人

の佐藤瞳取締役は健康

経営の取り組みを紹

介。分煙、体操、スポ

ーツ大会、血圧計、体

重計、各種セミナーを

進めた結果、社内での

転倒減少や健康への気

遣い、社内コミュニケ

ーション活性化につな

がったことを挙げた。

古川労働基準監督署

の署長は、ことしの労

働災害発生状況を踏ま

え、12月から2カ月間

行う「年末年始労働災

害防止強化運動」

の概要を説明。降雪期

に多発する転倒災害に

対する注意を呼び掛け

た。



労災に対する注意を呼び掛ける相澤署長